

受け継がれる技術支援のDNA

「あしたのジョー」「黒ネコのタンゴ」「万国博覧会」「歩行者天国出現」…昭和45年、今から35年前の流行や出来事です。今、ベテランとして活躍する方々にとって、その時代の興奮と元気を思い出させるものではないでしょうか。その昭和45年、東京都立工業技術センターが、北区西が丘(当時は、北区稲付)に開設しました。

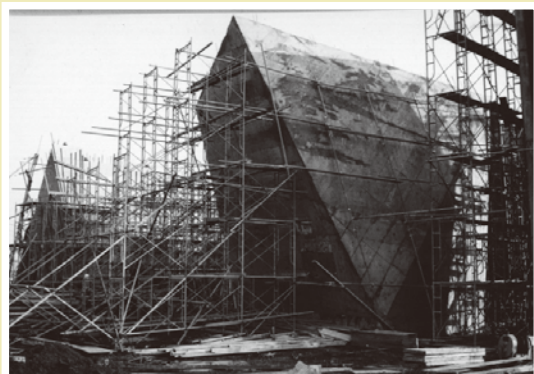
東京都立工業奨励館と東京都電気研究所を統合した工業技術センターは、工業奨励館(大正10年設立)で行っていた材料や機械に関する技術支援事業と、電気研究所(大正13年設立)で行ってきた電気・電機関連の事業をあわせ、都内産業の振興に役立ってきました。平成9年には、東京都立アイソトープ総合研究所(昭和34年設立)と統合し、名称を東京都立産業技術研究所に変更、平成12年には、東京都立繊維工業試験場(昭和2年設立)と統合し、広範なものづくり産業への対応を行う組織となりました。さらに、平成18年に地方独立行政法人東京都立産業技術研究センターとなって、よりスピーディな技術支援をしてまいりました。

今月のTIRI Newsでは、北区西が丘の地で35年間培ってきた技術、世田谷区深沢のアイソトープ総合研究所の活動を振り返り、長きにわたる皆様のご利用に感謝するとともに、移転先の新本部(江東区青海)でのさらなる事業展開につながる話題をご紹介します。より高度に戦略的に発展する技術への貢献と、ご利用になる企業の皆様のニーズに根差した真摯な支援は、私たち都産技研のDNAなのです。

西が丘



工業技術センター建設予定地 (昭和42年頃)



建設中の工業技術センター (昭和44年頃)